

# 豊岡市における農家民宿の現状と課題

竹本 美紀・安 哉宣・西原 元基

## 1. はじめに

都市住民のニーズ増大から、農山漁村の自然や文化の体験、人々との交流を目的としたグリーン・ツーリズムに対する取組が広がっている。その中でも、農山漁村の素朴な魅力を体感できる農家民宿はますます注目を集めている。農家民宿とは、農業者が経営する民宿で、農山漁村での生活体験や農林漁業体験などの余暇活動サービスを提供する民宿のことをいう。

また農家民宿には、農村地域振興の観点からも効果が見込まれており、国や各地域で規制緩和が行われるなど、その開業しやすい環境整備が進んでいる。兵庫県豊岡市もその例外ではなく、豊岡市(当時)を含む11市町を区域としたグリーン・ツーリズム特区が構造改革特別区域計画に認定された(平成15年4月21日)。この計画では、実施事業の中でも農家民宿を特に重視し、具体的には簡易な消防用設備等の容認事業を特定事業としている。また、農林漁家が民宿を行う場合の旅業法上の面積要件が全国的に撤廃されたことを受け、その周知・PRを進めることを関連事業として挙げている。さらに、国際観光客へ独自のホスピタリティを有し、地域の魅力発信の核となる施設を県独自にフレンドリーイン(日本の家庭の雰囲気体験できる民宿、ペンション等)として登録するフレンドリーイン推進事業を行うことで、事業の促進を図ることとしている。

この計画策定の背後には、北但馬地域は本来全国的に有名なスキー場、海水浴場、城崎温泉、出石城下町、コウノトリの郷など多くの観光資源に恵まれた地域であったが、ライフスタイルや価値観の多様化、景気の低迷の長期化により、近年観光入込客数が伸び悩んでいるという現状がある。そこで、当計画では、「農」と触れ合い、楽しむツーリズムの需要を的確にとらえ、従来からあるホテル、温泉旅館、民宿といった宿泊施設と調和をとりながら、「農家民宿事業」の他、「市民農園整備事業」を展開し、体験交流型ツーリズムの推進等関連事業を一体的に行うことにより、グリーン・ツーリズムによる交流を推進することを目標としている。この際、多

様な宿泊施設や多様な自然体験交流メニューを提供することにより都市部からの誘客を促進し、北但馬地域の都市と農村の交流の拠点づくりを行うことで、従来の観光とグリーン・ツーリズムおよびエコツーリズムが融合した新たなツーリズム産業を創出することを目指している。これにあたっては、コウノトリの旧豊岡市、海の浜坂町、香住町、温泉の城崎町、温泉町、スキーなどのレジャー産業の村岡町、日高町、美方町、竹野町、地場産業の出石町、但東町など、各市町の有する多様な地域資源の機能分担、連帯を図る必要性をあげている。

その後、平成17年に豊岡市は、城崎町、竹野町、日高町、出石町、但東町と合併して、現在の豊岡市になった。とくに断りのない場合は「豊岡市」の表記は現在の豊岡市のことを指す。

以上のように、豊岡市は、城崎温泉やコウノトリの郷公園など多くの観光地をもつ地域として、独自の農家民宿推進事業を行っている。このような動きをふまえ、本調査は豊岡市における農家民宿を観光資源の一としてとらえ、周辺観光地との関係性、集客力の程度などその現状を調査し、今後の可能性や課題についてまとめることとした。

## 2. 調査方法

本調査では、農村体験館「八平」及び農家民宿「一里」の農家民宿2軒を対象に、その農家民宿の成り立ちや現状等について、聞き取り調査を行った。

日時：2009年6月13日(農村体験館「八平」)

2009年6月15日(農家民宿「一里」)

対象地：兵庫県豊岡市但東町(図1参照)

対象農家民宿：農村体験館八平(兵庫県豊岡市但東町赤花)

農家民宿一里(兵庫県豊岡市但東町赤花)

主な聞き取り内容：表1参照

## 3. 調査結果及び考察

### (1) 開業について

#### ① 開業

八平は村おこしを目的として、全国のグリーン・ツーリズムを参考に1997年開業した。また、一里は25年前空き家となった農家を買取り、学



図1. 豊岡市但東町

表1. 主な聞き取り内容

項目1 開業について
<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 開業のきっかけ</li> <li>b. 開業の上で困難だった点</li> <li>c. 開業当初の評判</li> <li>d. 体験活動を始めたきっかけ</li> </ul>
項目2 現状について
<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 平均客数</li> <li>b. リピーターの割合</li> <li>c. 客の出身地</li> <li>d. 団体層(家族、友人等)</li> <li>e. 客の年齢層</li> <li>f. 平均利用日数</li> <li>g. 農家民宿へ来た際に他の観光地へも行く客の割合、またその訪問先</li> <li>h. 一番満足度の高いサービス、体験</li> <li>i. 一番の強み、やっていて特に良かったと感じる点</li> <li>j. 情報発信の有無・程度、重視している情報発信方法</li> <li>k. 他の農家民宿との連帯の有無・程度</li> <li>l. 行政との連帯の有無・程度</li> <li>m. 現在最も力を入れている取組</li> </ul>
項目3 今後の活動について
<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 今後の活動方針</li> <li>b. 後継者の有無</li> </ul>

生の活動拠点、そば職人の無料宿泊・研究施設として使った後、農家民宿事業に利用している。これには、但東町住民の90%が高齢者という限界集落となり、田舎の存続機能が低下したことがきっかけであった。このように、いずれのケースでも農村活性化が事業の狙いとしてあった点で共通している。

さらに、八平では開業の際、法律（建築基準法や食品衛生法、消防法など）の要項を満たすことを、困難だった点に挙げた。県への相談等に慣れることは容易でないことから、説明の基準の明確化は開業の易化に影響を与える大きな要因となることが示唆された。

一方で一里については、家屋が築200年を超えるため、本来ならば基礎を新しくする必要があったが、特区として規制が緩和されたことでそのまま民宿として利用している。このことから、規制緩和が民宿の開業のやすさにつながっているといえる。

## ② 体験活動

八平では、開業した当時グリーン・ツーリズムはまだ新しく、テレビや新聞等によって報道されたことで、当初2年程度の集客状況は好調であった。しかし、それ以後客足が遠のいてきたため、自家栽培をPRすることで、客数を安定させることができた。これは、顔の見える農家でつくられたものに対して信頼性が高く、ニーズがあったことが理由として考えられる。現在では、農作業体験、こんにゃく作り、そば打ち体験の各種体験活動が準備されている。

それに対し、もともと一帯地域が赤花そばの産地であり、一里を経営しているそばの郷生産組合では、1991年に食事等が可能な「そばの郷」を始めている。農家民宿施設である一里でも、体験活動としてそば打ち体験ができ、さらにそば畑のオーナー制度も設けられている。オーナー制度では、植え付け、肥料散布、草取り等は生産組合が行うが、客がそば栽培の権利を得、そばの収穫をすることができる。自身での刈り取りなど労働作業が困難になりつつあったことが、この制度の導入に関係していたが、現在100人程度と多くの利用者があり、農作業に役立っていることがわかった。

この点に関して、八平でも農作業体験の一環として、草むしり等客らの手伝いがあることで負担が軽減されるとの認識があったことから、高齢化によりすべてを自分で行うことが難しくなっている現状がうかがわれた。

## (2) 現状について

### ① 客層

八平では、年間3000人程度が来訪する。周辺地域の住民が訪れることもあるが、余暇を求めて神戸や大阪など近くの都市圏から来る場合がほとんどである。形態としては家族連れで、ある程度裕福であることが多い。その中でも新規の客は10%程度で、ほとんどがリピーターである。宿泊日数についても、最初は一泊程度から、次第に一週間くらいの連泊になっていく傾向がある。時期は、夏休み、ゴールデンウィークといった連休のほかに、カニが旬となる11、12月にも客足は増えている。

一里では、年間300～400人程度で、そのほとんどがそばの郷の利用者である。一里に泊めるのは時折で、現在はそばの郷を重点的に経営しているようであった。客層は、団体、家族づれが多く、京阪神地方から来る人がほとんどである。リピーターは少ないが、一泊から一週間までの連泊をするケースが多い。時期としては、ゴールデンウィークは特別に多いが、積雪量の多い時期には客数は減る傾向にある。

どちらの農家民宿でも、客数は十分であり、連泊する客が多いことから、客の満足度は高いものと考えられた。

### ② 情報発信

八平では、雑誌の取材など、無料のものしか受けておらず、HPの運営もリピーターに任せている。一里でも、新聞や但馬観光連盟ビデオなど無料での宣伝を主とし、インターネットを通じた販売もしており利用者数も多いが、それほど重視はしていない。

このように、情報発信も無料のものでやっていけばいいという程度で共通していた。これ以上の客数増加に対応できず、積極的に宣伝する必要性がないことが理由であると考えられた。

### ③ 他の農家民宿、行政との関係

八平は農家の体験ができることを、一里は元農家の建物を利用することを、それぞれ農家民宿として定義づけていた。つまり、農家民宿とは何かの定義づけに違いがあったことがわかった。そういった考え方の違いも影響しているのか、同じ但東町内にあるにもかかわらず農家民宿間では連帯はないようである。

また行政との結びつきもほとんどないか、あまり強くない程度であり、

負担は各農家民宿にかかっているようであった。特に一里からは、合併前までは行政側から宣伝・補助等親密に働きかけがあったが、豊岡市に合併して以降は、行政主体が大きくなり出石や香住に重点政策をすることで、行政側と担東町周辺住民側との距離が開いてしまった、という意見があった。このことから、行政には規制緩和等の対策のみならず、地区ごとに細かく対応することが望まれる。

#### ④ 他の観光地との関係

八平では、夏は但馬海岸での海水浴と併せて訪れるなど、八平を拠点として豊岡市周辺を観光する人が多い。また一里でも、他の観光地とのつながりについては、城崎温泉など有名旅館との連帯関係を10年ほどかけてつくったということであり、周辺地域の観光地とのつながりはあると考えられる。

ただし、豊岡市はコウノトリの郷で有名であるとはいえ、対象農家民宿ではコウノトリに対して親しみをあまり感じておらず、「コウノトリ育む農法」等にもあまり関心を持っていない。これはコウノトリが現時点では但東町まで来ていないことが原因として考えられた。

今後さらに連帯を強化し、PRすることで客数を増やせる可能性も十分に考えられるが、これ以上の客数増加に対応できないことから、それほど連帯強化に対する希望はないということが感じられた。

### (3) 今後の活動について

#### ① 今後の希望方針

八平は2004年12月に関西で初めてのどぶろく製造免許を取得し、販売を始めたが、今後は土産物として、どぶろく饅頭などの加工品販売を始めたとしている。その一方で、経営者の健康面に問題があることから、ゆとりをもつ必要性を感じている。一里でも、体調を崩したことから、ゆっくり経営していきたいとの意見があり、高齢化によって活発な推進が難しくなっていることがうかがわれた。

#### ② 後継者

後継者としては、八平では子が二人おり、今ではいろいろな手伝いをしている。一里でも病気になったことがきっかけとなって、子が跡を継ぐことが決まっている。

このように、今回聞き取り調査した2つの農家民宿はともに、経営がうまくいっていると同時に、後継者もきちんと決まっていた。しかし、高齢化の問題を考えると、後継者や手伝いのない農家民宿では、継続して経営することは難しいかもしれない。

#### 4. まとめ

豊岡市には城崎温泉やコウノトリの郷公園など多くの観光地がある。本調査では、その観光地の一つとして農家民宿の現状を把握し、今後の可能性や課題を考察することを目的とした。

実際に調査を行った農家民宿では、リピーターあるいは連泊する人が多く、満足度は高いものと考えられた。また、城崎温泉や但馬海岸など豊岡市内の他の観光地を利用する客数も多いとのことであり、農家民宿利用客が豊岡市の観光、また長期滞在に与える潜在的影響力は大きいと考えられる。したがって、より一層情報発信や他の観光地との連帯に力を入れれば、客足は増える可能性がある。

また、グリーン・ツーリズム特区となり農家民宿に対する規制が緩和されたことによって、民宿の開業が易化していたことが確かめられた。このことから、規制緩和政策は農家民宿の活性化に貢献しうることが示唆された。

ただし、双方の民宿は農家民宿業が軌道に乗っているだけでなく、他の収入源もあることで、安定した収入を得ているようであった。したがって、継続して経営するためには、民宿業だけでなく副業が成り立っていることも必要となるのかもしれない、開業のしやすさだけでなく、必要な場合には副業と両立させるための定期的な支援をすることが望ましいといえる。

さらに、高齢者が経営の中心となっていることが多いことから、一定以上の客の受け入れ等は困難となり、キャパシティーには限界があると考えられる。後継者や手伝いのない農家民宿では、この傾向は一層問題となるだろう。

しかし、そば畑オーナー制度が農作業上役立っていたように、客の労働力を活用する体制は、今後農業を続けていく上で非常に有効となり、このような制度を整えた農家民宿が普及すれば地域の活性化により貢献することになるかもしれない。

最後になりましたが、農村体験館八平の経営者である能勢勇氏、農家民宿一里の経営者である本田重美氏には大変お世話になりました。また、調査にあたって指導いただきました、広島大学大学院総合科学研究科の浅野敏久先生にも感謝申し上げます。

## 参考文献

- ・金俊豪、三橋伸夫 農家民宿の持続的経営に向けた施設・サービス基準に関する考察  
農村計画学会誌 26巻論文特集号 2007年12月
- ・長野県 すすめます「信州・農家の宿」農家民宿開業の手引き(第2版) 2007年4月
- ・長野県公式HP web site 信州  
<http://www.pref.nagano.jp/nousei/nouson/noukaminsyuku/>
- ・構造改革特別区域計画 内閣府構造改革特区担当室
- ・農村体験館八平HP <http://homepage1.nifty.com/HATIBEI/>
- ・赤花そばの郷HP <http://akabana-soba.net/>